

点検・評価	長所と問題点	将来の改善・改革に向けた方策
-------	--------	----------------

博士前期課程においては、論文の最終審査段階以外での実質的な指導は主担当教員に集中しているのが実情である。現在の特論演習を関連指導教員の合同での指導の場となるよう、平成17年度以降の課程の再検討を進めている。

後期課程においては、時間的制約の大きい社会人学生が多く、ほとんど学生個別の指導が行われている。関連分野の学生全体が集まり、討議しながらお互いに切磋琢磨できる場が不足しているのが実情である。

B 教育・研究指導方法の改善

1 教育・研究指導の改善

(1) 教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み状況

現状の説明

学部では教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組みとして、学生による授業評価を義務付けて実施しているが、大学院では未実施である。

点検・評価	長所と問題点	将来の改善・改革に向けた方策
-------	--------	----------------

学生による授業評価が未実施である理由は、特論科目の受講者が数名程度の登録である場合が多く、無記名での評価が実質困難なことに起因している。今後少人数教育にふさわしい評価方法を検討する必要がある。

(2) シラバスの適切性

現状の説明

大学院特論科目については、学習課題を記載した講義計画、講義の方法ならびに評価方法を明記している。

点検・評価	長所と問題点	将来の改善・改革に向けた方策
-------	--------	----------------

特論受講者は1名から数名程度であることが多い。そのような講義では、効果的な教育を実施するためには、講義計画等を明記しているにも関わらず、受講者の知識レベルに合わせながら、講義内容を再検討して実施される場合が多い。学生にとっては教員との緊密な関係による教育が受けられ、教育効果は高いが、本来のシラバスの内容まで達しない場合も多く、大学院講義としてのレベルを保持するための検討が必要である。